

新聞の切り抜き記事から



研究員 井原 慶一

当センターの新聞切り抜きファイルから主な記事を抜粋して紹介します。

□第32分冊 (2016年12月7日～2017年4月25日)

復興事業談合で課徴金

東日本大震災後、被災した宮城県の自治体などが国の復興交付金を基に発注した農業用大型ハウスの建設工事を巡って談合したとして、公正取引委員会が独占禁止法違反で5社に総額6億円の課徴金命令を出すことが分かった。(読売12/21)

定数見直し自民案提案へ

県議選の定数と区割りの見直しをめぐり、県議会最大会派の自民党は20日の議員総会で1票の格差を2.44倍とする同党案を来年の2月議会に提案することを決めた。(朝日12/21)

職員の不正会計・情報漏えい防止 首長に対策義務づけ

総務省は地方自治体の職員による不正会計や情報漏えいなどを防ぐ体制づくりを自治体の首長に義務付ける。早ければ今月召集される通常国会で地方自治法を改正し、2019年度以降の施行を目指す。(日経1/4)

こどもの声 うるさい

保育施設の子供らが出す音や声を巡り「うるさい」との苦情を受けたことがある自治体が、全国主要自治体149のうち109自治体(約75%)に上ることが読売新聞の調査で分かった。(読売1/8)

県議政活費で監査請求

千葉県市民オンブズマン連絡会議(代表幹事・広瀬理夫弁護士)は12日、県議延べ16人の海外視察に充てられた2015年度の政務活動費計約689万円が、政活費の目的を定めた県条例に違反した不当な支出にあたるとして、返還を求める住民監査請求を行った。(毎日1/13)

県予算1兆6,297億円一般会計

県は19日、2017年度当初予算案を発表した。3月に知事選があるため、新規事業を抑えた「骨格予算」だが、一般会計の総額は1兆6,297億円2,800万円で、過去最大となった前年度当初の95.1%に上った。(読売1/20)

千葉市最大の4,400億円規模

千葉市の2017年度当初予算案の概要が25日、明らかになった。一般会計予算は16年度比約1割増の4,400億円程度で、過去最大を更新する見込みだ。(日経1/6)

県市長会長に鎌ヶ谷市長

県市長会の次期会長に清水聖士鎌ヶ谷市長が就任することに決まった。(読売1/31)

鴨川市長に亀田氏初当選 庁内改革に意欲

5日投開票された鴨川市長選挙は、無所属の新

人で前県議の亀田郁夫氏(65)が、無所属で再選を目指した現職の長谷川孝夫氏(68)に891票差をつけて初当選した。(毎日3/7)

夕張「緊縮」一辺倒を転換

高市早苗総務相は7日、財政再建中の北海道夕張市の再生計画見直しに同意した。2017年度からの10年間で、住宅整備や認定こども園新設など113億円の新規事業を実施する。歳出を抑え続けた結果、人口流出が加速、地域の存続が危ぶまれる状況に陥っているためだ。(日経3/8)

県内12大学に改善意見 国際医福大は7項目

文部科学省は、2016年度の国公立の大学や短大、大学院、高等専門学校の運営状況調査の結果を公表した。本県関係では、昨年4月に開校した国際医療福祉大・成田キャンパスに対し「退職年齢を超過する教員が多い」など7項目の改善意見が付されるなど計12校が改善を求められた。(千葉日報3/16)

千葉県知事選 森田氏が3選

任期満了に伴う千葉県知事選は26日投開票され、現職の森田健作氏(67)が、前浦安市長の松崎秀樹氏(67)や元高校教諭の角谷信一氏(62)らを破り、3選を果たした。(毎日3/27)

浦安市長選挙

元県議の内田悦嗣氏(52)が初当選。元市議の折本ひとみ氏(59)、元市議の岡野純子氏(38)を破る。投票率は45.20%。(毎日3/27)

県内 特養待機1.2万人

16年調査、軽度者大幅減

厚生労働省は特別養護老人ホーム(特養)への入所を申し込んでも入れない待機者が昨年4月時点で全国で約36万人だったとの調査結果を発表した。2013年の前回調査の52万4千人より30%減った。本県は1万2,387人(うち要介護2以下は2,222人)。県は今年1月1日現在の市町村別、医療県別の待機者も独自に集計しており、県内合計は1万1,067人(同556人)。15年4月から新規入所は要介護3以上の中重度者が原則と厳格化され、軽度者の待機者が大幅に減った格好。

(千葉日報4/5)

ミサイル対策 急ぐ政府 自治体向け説明会／ サイトに避難方法

政府は21日、弾道ミサイル攻撃を受けた際の避難方法を国民に周知するため、内閣官房のホームページに掲載した。同日には都道府県の危機管理担当者を集めて説明会も開催。北朝鮮情勢を巡る不安の高まりを背景に、政府・自民党が力を入れる弾道ミサイル防衛(BMD)の強化も加速しそうだ。(朝日4/22)

越川氏大差で再選 銚子市長選

任期満了に伴う銚子市長選は23日、投開票され、現職の越川信一氏(55)＝1期が、前職で弁護士の野平匡邦氏(69)、新人で前市議の椎名亮太氏(32)を破り再選を果たした。(千葉日報4/24)

<以下次号へ>